

各位

(公社) 熊本県理学療法士協会
会長 坂崎 浩一
学術部部长 宇野 晃輔
研修班班长 富田 惇

令和6年度「第104回学術研修会」のご案内

テーマ：体幹と骨盤の評価と運動療法

講師：鈴木 俊明 先生

(関西医療大学大学院 保健医療学研究科 研究科長 教授)

日時：令和7年2月8日(土) 14:00～17:00 (3時間)

令和7年2月9日(日) 9:00～16:00 (6時間)

会場：九州中央リハビリテーション学院

形式：対面実技研修

対象：理学療法士、作業療法士、その他医療関連職種

定員：45名 (定員になり次第締め切らせていただきます)

会費：熊本県理学療法士協会会員 5000円/ 非会員 16000円

(日本理学療法士協会会員でも、熊本県士会員以外の皆様は非会員価格になります)

単位：① 登録理学療法士 更新 ⇒ 区分5 57 機能と構造 身体機能の低下 9ポイント

② 認定/専門理学療法士 更新 ⇒ 研修会 9点

【お申込み】

日本理学療法士協会 会員

熊本県士会5000円

県外会員16000円

日本理学療法協会ホームページもしくは[アプリ](#)よりお申し込みください。

セミナー番号：136699 ←[セミナー検索画面](#)で入力し検索ください。

申込期日：クレジットカード(1月29日) / 口座振替(12月24日) / 現金振込(1月10日)

※お申し込み後は、協会登録のメールアドレスに自動返信メールが配信されます。



【JPTA セミナー検索】

日本理学療法士協会

非会員16000円

下記 URL または QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/VJwsTPj571u1rPNFA>

申込期日後に受講の可否、お支払先(口座振り込み)をメールにてご連絡します。【非会員 フォーム】

申込期日：1月12日

※お申し込み時に入力されたメールアドレスに自動返信メールが配信されます。



問い合わせ先：社会福祉法人 黎明会 宇城総合病院 リハビリテーション部

平田祐志 myshkap5630@gmail.com

『体幹と骨盤の評価と運動療法』

【研修会内容】

体幹筋の神経・筋機能を正常化させるためには、動作にともなう体幹筋の正しい働きを知ることが重要である。健常者の体幹筋の作用は、座位、立位において異なっている。特に、座位、立位での側方移動にともなう内腹斜筋の働きは活動する線維が全く異なる。座位では、移動側の内腹斜筋 斜走線維の筋緊張は移動にともない低下し、移動距離の増加にともない筋緊張の低下は維持されるが、最後に筋緊張が増加する。最後の増加は静止性収縮としての働きである。また、移動側と対側の内腹斜筋 斜走線維は移動に伴い増加する。立位では、側方移動にともない移動側の内腹斜筋 下部横行線維の筋緊張は次第に増加する。移動側と対側の内腹斜筋 下部横行線維はほとんど活動しない。このような違いを理解することで、適切な体幹筋のトレーニングを行うことができるわけである。要するに正しい評価ができるかが重要である。

本研修会では、1. 健常者での座位における体幹機能、2. 健常者での立位における体幹機能の2点について講義する。今回の研修会を通して、具体的な評価と運動療法の細かな手法を学んでいただきたい。また、明日の臨床で体幹機能を詳細に評価でき治療できる、いわゆる治せるセラピストを目指すことの可能な講習会としたい。

【講師紹介】

鈴木 俊明（すずき としあき）先生

関西医療大学大学院 保健医療学研究科 研究科長 教授



【学歴】

1986年3月 京都大学医療技術短期大学部 理学療法学科 卒業

2002年3月 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）より博士授与

【略歴】

1986年4月 大阪府済生会野江病院 理学診療科

1988年4月 京都大学医療技術短期大学部 理学療法学科 助手

1994年4月 関西鍼灸短期大学 神経病研究センター 講師

2001年4月 関西鍼灸短期大学 神経病研究センター 助教授

2003年4月 関西鍼灸大学 神経病研究センター 助教授

2007年4月 関西医療大学 保健医療学部理学療法学科 教授

2011年4月 関西医療大学大学院 保健医療学研究科 教授、2012年に研究副科長（2021年3月まで）

2013年4月 関西医療大学保健医療学部 理学療法学科 教授、学科長、教務部長

2017年4月 関西医療大学 教務部長 教授（現在に至る）

2021年4月 関西医療大学大学院 保健医療学研究科 研究科長 教授（現在に至る）

【資格】

専門理学療法士（基礎、神経） 認定理学療法士（神経筋障害）

【論文】※一部抜粋

- ・ The Importance of F-Wave Patterns in a Patient with Cerebrovascular Disease Characterized by a Markedly Increased Tone of the Thenar Muscles. Case Reports in Neurology 14: 427-431, 2022
- ・ Excitability of Spinal Neural Function during Several Motor Imagery Tasks Involving Isometric Opponens Pollicis Activity.. NeuroRehabilitation 33: 171-176, 2013